

極微ごくみ

振り袖

知人から「娘の成人式に来て欲しい」と言われて、成人式会場に出かけた。会場の女性は、全員振り袖である。赤ん坊を抱いた振り袖も参列している。数百人の振り袖を目の当たりにすると、異星にきたような気がした。

聞けば、一日の貸衣装代が、二十五万円という。手塩にかけて育てた娘の晴れ姿である。高い、安いは言わない。何のための成人式か、とも言えない。ただ、成人式を見直そうという昨今の動きに、市長が「地元の商工会、特に呉服関係が反対だから」と弁明していた記事を読み出した。式に、一人だけ、紺のスーツの女性がいた。凛々としていた。

天台ジャーナル

The Tendai Journal

第11号

2004年(平成16年)
2月1日 日曜日(毎月1日発行)
1部 50円(送料別)
発行所/天台宗出版室
発行人/出版室長 工藤 秀和
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内
電話 077-579-0022 (代)
Eメール/T-Press@tendai.or.jp

◎ Life

一切衆生悉有仏性

ペットはモノだから供養に課税？

命すべてに極楽往生を願う



局が「ペットはモノで、読経や納骨などは、宗教行為ではなく、課税対象」としたところから、法廷での宗教論争に発展しそうな気配である。

「成仏させ、飼い主の悲しみを癒すのは人の供養と同じ」と主張するのは、愛知県春日井市の慈妙院・渡辺円猛住職。

この問題に対して天台宗の工藤秀和総務部長は「施主は、ペットを家族の一員と考えていればこそ、法要と供養を依頼する。ペットの極楽往生を願うがゆえであり、法要と供養を始め埋葬にいたるまで、寺院の行為は、当然宗教行為以外の何ものでもない。葬儀供養により、飼い主の深い喪失感を癒し、安心を与える。このことが、宗教的行為でなければ、何が癒しを与え、安心を与えているのか全く説明がつかない。寺院ばかりでなく、施主(家族)に対する冒涇であると思われる」との立場を示し、また全日本仏教会も「仏教は『一切衆生悉有仏性』と、生きとし生けるものはみな成仏するという思想の上に立っており、その全てはそれぞれ支えあつて生かされているのち尊重の教えであります。このことからペットにおいても、深い宗教心をもって供養をおこなうもので、当然宗教行為と考える」と連携支援を打ち出した。

一九九九年に改正された動物愛護管理法によれば、その二十七条の①に「愛護動物をみだりに殺し、又は傷つけ

た者は、一年以上の懲役又は百万円以下の罰金に処する」とあり、②には「愛護動物に対し、みだりに給餌又は給水をやめる事により衰弱させる等の虐待を行った者は、三十万円以下の罰金に処する」とある。この改正は、九七年に起こった少年A事件、いわゆる酒鬼薔薇聖斗が事件以前に行っていた動物虐待の事実をふまえている。すなわち、愛護動物の命の尊厳を国家が保障することにより、青少年の情操を保とうとする国の姿勢である。

一方で、行政によって年間に殺処分される犬や猫は約五十万頭になる。飼い主の「もう面倒をみられない」という理由や、捨てられて野良となったペットたちは、各都道府県にあるセンターなどに送られ殺処分となる。

憂うべきは、自分たちの都合で飼い、捨てる人間の身勝手さであろう。「ペットはモノ」という見解が、更に命の尊厳を軽んずる風潮に拍車をかけるのではないかと憂慮する。

心のケアは宗教行為

日本で、犬や猫などのペットを飼育しているのは千九百万世帯という。可愛がっていたペットが死んだ時の、飼い主の精神的なストレス、いわゆる「ペットロス」

は社会的問題になってきている。ペットは、飼い主にとって大切な家族の一員であり、心の拠り所である。仏教、特に天台宗では、命あるものはすべて成仏すると

教え、それゆえに命の大切さを説いている。それは、動物ばかりではなく、草や木という植物や、宇宙の森羅万象、命あるものすべてである。それゆえ、飼い主から求められれば、供養をし、納骨を引き受けている寺院も多い。ところが、このほど税務当

素晴らしき言葉たち

Wonderful Words

目に見えるものでも見えないものでも遠くに住むものでも近くに住むものでもすでに生れたものでもこれから生れようと欲するものでも一切の生きとし生けるものは幸せであれ

「ブツダのこぼれ」
岩波文庫

みんなが幸せであつて欲しい、このことがお釈迦様が目指された究極の道です。

仏教の教えは、難しいと思つておられる方も多いのですが、示されてみると意外と簡単です。

しかし、やはり難しい。生きとし生けるもの、みんなが幸せになるにはどうすればよいのか？そのことを求めて日々精進することは、並大抵ではありません。

法華経の信者だった宮沢賢治は「この世のすべてのもの

が幸せに成らない限りは、自分の幸せというものはない」と言いましたが、他の人のことを優先的に考えるというのも、ひとつの方法でしょう。

有名な「雨ニモマケズ」の中に「アラユルコトヲ ジブンヲカンヂヤウニ入レズニ」とあるのは、天台宗の「忘己利他」の精神と同じです。

まだ見ぬ命にも、自分が見えないものにも「幸せであれ」と祈ること、そうすれば、暖かい春の日のような気分になつてきます。



ハワイ開教奮戦記 (5)

男はロマン

荒了寛 (カッターも筆者)

調査団が帰国して、一年が経過した頃、末村氏から「別院建設に絶好の物件が出た」との連絡がありました。

ジャックレーン街にあるハワイ五大財閥の一つ、キャッスル家の別荘で、建坪百八十坪、敷地一・五エーカー、名

建築家E・アイベスの手になるものです。条件は価格が四十万ドル、契約時に十万ドルの支払い、残金は銀行ローンで十年分割払い、というものでした。四十万ドルは当時の為替レートで円換算すれば一億四千万円になります。予算は、三千万円程度と考えていた羽場師にしても私にしても目のくらむような金額でした。末村氏からは「これ以上の物件はない。すぐに手を打たないと売れてしまうから、すぐに十万ドルを用意してハワイに来てもらいたい」と一晩に何度も催促の電話がかかってきました。羽場師は、私に「いますぐに十万ドルといわれても、とても無理だ。電話で断るのも末村氏に失礼



昭和48年11月の別院開院式に参加した参拝団
Tendai Mission Review (天台宗海外伝道事業団発行)より

だから、あんたが行って、何か理由をつけて断ってもらいたい」と言われました。

私は、その時ひとりの友人を思い出し、羽場師に「十ドルを立て替えてくれる人がいれば、あとで返済することにして、取りあえず売買契約を進めてみてはいかがですか」と提案してみました。

その友人とは、福島時代からのつきあいで、東京時代から材木屋で働き、今は成城近くで材木屋を経営する傍ら、建売住宅の販売を手広くやっていた根本弘氏です。彼に「ハワイでゴルフをしなが

ら不動産の鑑定をしてくれ」と頼みますと、一緒にハワイに行ってくれることを了承してくれました。

実際にこの目で見てみると、これまで見たきた物件とはケタ違いの構えでした。当時はまだ、キャッスル家の一族が住んでいて、白人の女主

人がぐまなく邸内を案内してくれました。関本氏は「南向きの傾斜地で、土地も申し分ない。図書室内装のコアの材木代だけでも、この土地が買える値打ちがある」と鑑定しました。

その夜、私は彼に、天台宗について、またハワイ開教について熱く語りました。最後に彼は「おまえ、本気でハワイに渡り、寺をやる気だな。よし、男はロマンだ。おまえの夢と情熱に賭けてみよう」と言い、翌日十万ドルを振り込んでくれました。

ところが根本氏とて事業家です。遊ばせておくほどの大金は持たないので、わずか一カ月という短期の融資でした。しかしこのとき、手をつたなければ、永遠にこの土地は手に入らなかったわけです。一方、土地が人手に渡るのは一時的に防げたものの、猶予は一カ月です。その間に

十万ドルを工面することは至難のことでありました。悩みに悩んだ末、羽場師は大英断を下し、血の滲むような苦勞の結果、有志の協力もあり、この難局を乗り切ることが出来たのでした。それこそ羽場師の決断と犠牲がなければ、ハワイ開教への道は開かれなかったことでしょう。一方、残題については今東光師(のちの事業団理事長)の口添えで師の友人であるオキシデンタル・ハワイ生命保険会長のL・T・香川氏が仲介、ハワイ銀行から借り入れることが出来ました。今までの何の取引もない銀行から設立間もない天台宗海外伝道事業団が一億円に及ぶ融資をうけられたのは仏天のご加護と申すほかはないでしょう。

当時、宗内には必ずしも海外開教についての理解が十分あったとは言えず、別院の運営費とは別に十年間で一億四千万円に及ぶ借金を返済していくことは容易なことではありませんでした。しかし、一宗予算にも海外開教費が計上され、座主陛下をはじめとする、総本山門跡、大寺、さらに趣旨に賛同頂いた寺院のご協力のもとにハワイ開教の幕が開けられたのでした。かくして、その年の十一月二十五日、菅原座主陛下はじめ天台宗高僧各位、檀信徒三百名が列席して、天台宗ハワイ別院の開院式典が営まれたのです。残念なことは、L・T香川氏が八月に亡くなり、恩人の顔が開院式に見られなかったことでした。

鬼手仏心

水と義足

天台宗宗務総長 西郊 良光

あるチャリティ・コンサートに行った。

義援金を受け取りに来られたユニセフ親善大使の黒柳徹子さんが言った。

「世界には、水が無くて死ぬ子どもたちがたくさんいる。殆どは発展途上の国で、その現実すら正確に伝わっていない。イラクも、衛生状態がきわめて悪い。汚れた川で生活水を摂るから伝染病で子どもたちが死んでいる。それは戦争で電気供給の施設を破壊され、水を濾過することができないからだ」。

「地雷で足を失った子どもに、私たちが与えてあげ

ワクチンが買え、何人もの子どもたちが命を救われるのだという。世界は、軍備には、何億もの巨費をつぎ込むが、貧しい国々が直面する死には無関心にしか見えない。

それにしても、電気施設を破壊するということは、水を止めることになるのだとは、生々しい証言だった。戦争のたびに繰り返される「民間人の攻撃は避け

る」とは、詭弁であろう。戦争とは、かくも残酷なものだ。

「地雷で足を失った子どもに、私たちが与えてあげ

る。鋭く撃つようでもあ

る義足は、本当に粗末なものだ。それでも、彼らは『これで、また羊の世話が出来ると喜んで山に帰ってゆく』と黒柳さんは言った。義足をもらった子どもの目は、希望に溢れている、とも言った。

もちろん、天台宗も一隅を照らす運動総本部等を通じて、折に触れて国際的な援助活動は展開している。しかし、それとは別に粗末な義足をつけた少年の輝く目は、いつしか私達の心に巣くっている怠惰な思いを、鋭く撃つようでもあ

私たちは待っています



イランで地震、甚大な被害と深刻な状況

昨年12月26日未明、イラン南東部の都市バムを中心にマグニチュード6.5の強い地震がありました。報道によると、死者は4万人を超え、5万人に達する可能性もあるとのこと。この大惨事の中において、震災孤児は6千人以上、電気・水道は止まり、水・食料など生活物資の不足に約10万人の被災者は、寒さの中で悲しみと絶望に沈み、子どもたちの精神も非常に深刻な状況にあります。夜には-8℃にもなると報道され、厳寒の早朝5時半の発生は、9年前の阪神・淡路大震災を想起させ、胸が痛みます。一隅を照らす運動総本部では、この甚大な地震災害からの復興を支援するため、緊急募金活動を行うこととなりました。是非ともご協力をお願い申し上げます。皆様からの善意は、日本ユニセフ協会と日本赤十字社等に依託し、支援いたします。

問い合わせ先

〒520-0113 大津市坂本4-6-2 天台宗務庁内
一隅を照らす運動総本部「地球救援募金事務局」
TEL 077-579-0022
FAX 077-579-2516

送金方法：下記の郵便振替口座へ送金下さい。
郵便振替：口座番号 01050-1-69509
加入者名：一隅を照らす運動総本部 地球救援募金事務局

※「イラン地震」と明記下さい。

締め切り：平成16年3月末日